

総務よもやま話



Y.S.氏作

～本当に大事なものは隠れて見えない。

ささやかすぎる日々のなかにかげがえのない喜びがある (^_^♪

「紅顔の微？少年」と言われた日々は遠く過ぎ去り、「厚顔無恥」な日々を送っている総務の豊島と申します。さて、前置きはほどほどに。

ゆいに勤務して10数年が過ぎようとしておりますが、時々「はっと」するような出来事に出くわします。それは、夕焼けの綺麗な日でしたが、玄関ホールにちらっと目をやりますと、女性職員がぽつんと正面玄関の方を見て立っております。どうしたのかな？と思ってしばらく様子を見ておきますと、どうやら一時帰省の「入所者さんと保護者さん」を見送っているようでした。車が出発し、ゆいの門を出るのを見届けてやっと踵を返しました。結構長い時間だったので、ホールに出て興味本位にその職員に尋ねました。「最後まで見送るように先輩に指導されてるの？」すると、「そんなことはないんですけど、皆さんそうしているし、その方が良いと思ったので……。」とにっこり。



以前読んだ新聞のコラムにも同じような体験が載っておりました。「残心」というか、「一期一会」だからからというべきか。精一杯の真心を感じる出来事でした。残念ながらそのY職員は、体調不良で退職されてしまいました。今もどこかで大切な人を心を込めてお見送りしていることと思います。

ゆいでは、今でもその素敵なお見送りは誰からともなく、引き継がれております。（写真）

年齢に関係なく気高い魂に触れることが出来たとき、生きていて良かったと老兵は思います。

加藤さん（所長）、今どきの若いもんは、やっぱりしっかりしてますね！ おしまい。